

令和 2 年 9 月 24 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03317

研究課題名（和文）多民族国家マレーシアの社会秩序再編における非正規滞在者の役割

研究課題名（英文）Immigrants and Social Integration of Multi-ethnic Malaysian Society: Case of Migrant Workers from Neighboring Countries of Southeast Asia

研究代表者

篠崎 香織 (Shinozaki, Kaori)

北九州市立大学・外国語学部・教授

研究者番号：90573486

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,050,000円

研究成果の概要（和文）：近年来マレーシアで急増しつつあるインドネシア、フィリピン、ミャンマーからの移民・一時就労者について、滞在実態とマレーシア社会との関係を調査・分析した。これら3か国からの移民・一時就労者の中には、マレーシアに長期滞在しマレーシアの国民になり、あるいは外国人として、マレーシア社会の一部を構成する人びとも少なくない。これら移民・一時就労者がマレーシア社会に居場所を確保するうえで、出身地や人口規模、文化的背景に応じて外国人を国民として統合する制度設計を行ってきた多民族国家マレーシアの経験が機能していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際移民労働者をめぐる課題に、移民労働者がいかにして適正な労働・生活環境を確保するかという課題と、移民労働者の受入国がいかにして出自や文化が異なる人々を社会的に受け入れるかという課題がある。この課題に対し、移民労働者に国籍を付与して権利を保障し、国民統合を進め、社会統合を図る方法がある。しかし移民から国民となった人々が経済的・社会的に周縁化されたり、この対応をめくり受入国で社会全体を巻き込む亀裂が生じていたりする。これに対して本研究は、永住・国籍取得を必ずしも前提とせず、移民や外国人労働者を社会に統合する方策を検討する点で、学術的・社会的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：In recent years, there are rapid increase in the number of migrants and temporary workers from Indonesia, Myanmar and Philippines to Malaysia. This study conducted research on their social condition in Malaysia as well as their relationship with Malaysian society. There are not a few number of migrants and temporary workers who stay in Malaysia for many years and become an integral part of Malaysian society, as whether Malaysian nationals or foreign nationals. This study clarified that the various patterns of social integration depending on migrants' origin, size of population and cultural background constructed in multi-ethnic Malaysian society since the founding of the state, are functioning today to provide places for migrants and temporary workers in Malaysian society.

研究分野：マレーシア地域研究

キーワード：マレーシア インドネシア ミャンマー フィリピン 移民 外国人 社会統合 多民族国家

## 1. 研究開始当初の背景

欧米先進諸国では移民に国籍を付与し、国民化することにより社会統合が図られてきた。しかしその過程で、出自や文化の異なる移民系国民を包摂して国民概念を再定義すべきだという考えと、移民系国民に既存の国民概念への同化を求める考えとが顕在化し、そのことが受入国全体を巻き込む摩擦や対立を増大してきたと指摘されている。

これに対してアジアの石油産出国や新興工業国は、移民への国籍付与に慎重な政策を採ってきた。これらの国家では、移民は外国人として国民とは異なる法的地位に置かれることを国民と移民とが互いに了解したうえで、それぞれが文化や信仰を実践し、国民と外国人が交わらない社会が構築されている。

マレーシアは、世界でもっとも外国人労働者の比率が高い国の1つとして知られている。マレーシア政府による統計では、外国人人口はマレーシアの総人口の約10パーセントを占め、また非正規滞在者と難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の難民認定者を加えると、外国人人口はマレーシアの総人口の20パーセントに達するという推計もある。

マレーシア社会における移民・一時就労者の位置づけは、欧米先進諸国とも、アジアの石油産出国・新興工業国とも異なる。マレーシアでは、移民・一時就労者に一元的な文化への同化を迫る圧力はない。しかし国民と移民・一時就労者との境界線が明確ではないケースも多々存在し、一時就労者がそれぞれのもつ資源を活かしてマレーシア国民となる場合もある。移民・一時就労者の待遇の改善が必要とされるケースは多々あるものの、移民・一時就労者の存在がマレーシア社会全体に大きな亀裂をもたらしたり、マレーシア国民と移民・一時就労者との間に大きな亀裂が存在していたりするわけではない。移民・一時就労者はマレーシア社会にあいまいに位置づけられることで、マレーシア社会は移民・一時就労者を安定的に受け入れてきたと言える。

## 2. 研究の目的

本研究は、マレーシア社会における移民・一時就労者のあいまいな位置づけ方を、分析・説明することを目的とした。あいまいな位置づけは、一元的・一面的に移民・一時就労者を受け入れてきたためではなく、移民・一時就労者の出身地域、文化的背景、規模、移住・就労時期などに応じて個別の対応をとったためであると仮説を立て、1990年代以降の東南アジア域内からの移民・就労者、具体的には、インドネシア、フィリピン、ミャンマーからの移民・一時就労者を事例として、出自国と受入国の双方で個別または合同で調査・研究を行った。

## 3. 研究の方法

研究組織のメンバーは、それぞれに担当テーマについて、文献調査と現地調査を実施した。篠崎はマレーシア半島部について、山本はマレーシア・サバ州について、それぞれ受け入れ社会側の動向を調査・分析した。西はインドネシアとマレーシア双方で、水野はミャンマーとマレーシア双方で、細田はフィリピンとマレーシア双方で、それぞれ移民・一時就労者の実態を調査した。

文献調査では、マレーシアにおける移民の受け入れに関する先行研究と、インドネシア、ミャンマー、フィリピンの移民・一時就労者に関する先行研究をおさえるとともに、各国で刊行されている定期刊行物 (新聞・雑誌) なども購入し、マレーシア社会における移民・一時就労者の位置づけに関する記事と、移民・一時就労者がかかわる組織についての記事を整理した。

現地調査では、移民・一時就労者とその関連組織、移民・一時就労者とかかわるホスト社会の関係者に聞き取り調査を行うほか、政府関係者・研究者・実務者と意見交換を行った。これら個別の現地調査と並行して、合同での現地調査も実施した。平成28年度はマレーシア・サバ州で、平成30年度はフィリピン・マニラで、平成31年はミャンマー・ヤンゴンおよびパゴーで実施し、受け入れ側と送り出し側双方の状況について共有した。

これに加えて、移民・難民についてのアプローチや理論、分析枠組みを把握するために、研究体制外の研究者との意見・情報交換の場を設けた。平成29年度に学会パネル「ムスリム系移民・難民と東南アジアの民族間関係 ― ミャンマー・マレーシア・バングラデシュの事例から」(東南アジア学会) とシンポジウム「忘却されざる記憶 ― 60年後からみるマラヤ建国 (日本マレーシア学会) を実施した。

これらの活動の準備のため、またその結果の共有のため、年に3回程度、研究組織のメンバーによる研究会を実施した。そのうち1回程度は研究組織外から報告者を招き、研究組織内の議論の相対化を図った。

## 4. 研究成果

近隣諸国からの移民・一時就労者が急増している近年来のマレーシアについて、移民・一時就

労者の滞実態と、移民・一時就労者とマレーシア社会との関係を、インドネシア、ミャンマー、フィリピンの事例に基づき明らかにした。これら3か国からの移民・一時就労者のなかには、マレーシア国籍を取得する人もいるが、外国人の身分のまま長期滞在する人、出自国とマレーシアとの往来の中に生活空間を創出する人、そうした往来を支えるネットワークの一部を担う人など、マレーシア国籍を取得せずともマレーシア社会に居場所を確保しているケースが少なくないことがわかった。

その背景として、マレーシアが歴史的に外国からの移民を受け入れ国民を形成してきた経験を持つことに着目し、建国以来マレーシアが構築してきた社会統合パターンを整理した。マレーシアは、半島部と、ボルネオ島のサバ、サラワクの3地域で構成される。このうち半島部では、多数派に包摂されたり排除されたりを繰り返しながらゆるやかに同化していくパターン（マレー人）と、多数派と異なる独自の民族であると認められることで統合されるパターン（華人とインド人）とが構築されてきたことを整理した。またサバでは、社会に何らかの貢献をする限り、文化や出自の違いに意味を持たせずに社会の一員として受け入れるパターンが構築されてきたことを整理した。

これら3つのパターンは、インドネシア人に対して宗教と言語を同じくするマレー人社会、ミャンマー人に対して仏教徒を多数派とする華人社会、フィリピン人に対してフィリピンという出自を問わずに社会に位置付けるサバ社会というように、移民・一時就労者をゆるやかにマレーシア社会に位置付けうる素地を提供していることがわかった。

以上の成果を、日本マレーシア学会第28回研究大会でパネル「多民族社会マレーシアにおける移民と社会統合——東南アジア近隣諸国からの移民・就労者の事例に即して」として公表した（2019年12月21日、立教大学池袋キャンパス）。同パネルは、趣旨説明（篠崎香織）3本の報告（西芳実「マレーシアにおけるインドネシア人移民」、細田尚美「サバ州在住のフィリピン人キリスト教徒」、水野敦子「マレーシア都市部におけるミャンマー移民労働者」、コメント（山本博之）で構成した。またこのパネルをもとに、篠崎香織・山本博之編著『多民族社会マレーシアにおける移民と社会統合』（京都大学東南アジア地域研究研究所、CIRAS ディスカッションペーパーNo.93）を2020年3月に刊行した。

またこれら成果の一部を、篠崎香織『プラナカンの誕生——海峽植民地ペナンの華人と政治参加』（2017年、九州大学出版会）、細田尚美『幸運を探るフィリピンの移民たち——冒険・犠牲・祝福の民族誌』（2019年、明石書店）、細田尚美「フィリピン・東ビサヤ地方における「家族」介護

移民送出地域でみられる高齢者ケアの実践から」（速水洋子『東南アジアにおけるケアの潜在力——生のつながりの実践』2019年、京都大学出版会）として刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 SHINOZAKI Kaori	4. 巻 6
2. 論文標題 The Penang Chinese and the Electoral Process of the Republic of China's National Assembly, 1913	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Malaysian Journal of Chinese Studies	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 西芳実
2. 発表標題 マレーシアにおけるインドネシア人移民
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細田尚美
2. 発表標題 サバ州在住のフィリピン人キリスト教徒
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野敦子
2. 発表標題 マレーシア都市部におけるミャンマー移民労働者
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本博之
2. 発表標題 マレーシアにおける社会統合の3類型と外国人移民
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 篠崎香織
2. 発表標題 趣旨説明：3地域の視角からマレーシアの外国人労働者の実態に迫る
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHINOZKI Kaori
2. 発表標題 Natural Disaster in Global Urban City: Landslides in Penang, Malaysia
3. 学会等名 International Workshop on "Human Response to Disaster in Southeast Asia
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 篠崎香織
2. 発表標題 マレーシア政治における州という枠組み ペナンの事例から
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHINOZAKI Kaori
2. 発表標題 Political Participation in Multiple Homelands: The Chinese Business Community in Penang and Straits Settlements
3. 学会等名 Seminar at the Penang Institute, Malaysia
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野敦子
2. 発表標題 マレーシアにおけるミャンマー移民労働者の実態 ベナンでのインタビュー調査をもとに
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本博之
2. 発表標題 趣旨説明（パネル発表「ムスリム系移民・難民と東南アジアの民族間関係 ミャンマー・マレーシア・バングラデシュの事例から」）
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠崎香織
2. 発表標題 ムスリム系移民・難民が揺るがしうるマレーシアの民族間関係（パネル発表「ムスリム系移民・難民と東南アジアの民族間関係 ミャンマー・マレーシア・バングラデシュの事例から」）
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠崎香織
2. 発表標題 趣旨説明(シンポジウム「忘却されざる記憶 60年後からみるマラヤ建国」)
3. 学会等名 日本マレーシア学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細田尚美
2. 発表標題 移民研究からみた東南アジア研究
3. 学会等名 東南アジア学会第96回研究大会(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 篠崎香織、山本博之、西芳実、細田尚美、水野敦子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所(CIRASディスカッションペーパーNo.93)	5. 総ページ数 30
3. 書名 多民族社会マレーシアにおける移民と社会統合	

1. 著者名 細田尚美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 395
3. 書名 幸運を探すフィリピンの移民たち 冒険・犠牲・祝福の民族誌	

1. 著者名 速水洋子、細田尚美ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 596 ( 315-350 )
3. 書名 東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践	

1. 著者名 篠崎香織・西芳実	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 47
3. 書名 ムスリム系移民・難民と東南アジアの民族間関係ミャンマー・マレーシア・バングラデシュの事例から	

1. 著者名 篠崎香織	4. 発行年 2017年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 484
3. 書名 プラナカンの誕生 海峡植民地ペナンの華人と政治参加	

1. 著者名 大野拓司、鈴木伸隆、日下渉、細田尚美ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 408 ( 40-45 )
3. 書名 フィリピンを知るための64章	



1. 著者名 坪井祐司、山本博之、山口元樹、野中葉、篠崎香織	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所 (ディスカッションペーパーNo.68)	5. 総ページ数 77 (35-40)
3. 書名 『カラム』の時代 : マレー・ムスリムの越境するネットワーク	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水野 敦子 (Mizuno Atsuko) (10647358)	九州大学・経済学研究院・准教授  (17102)	
研究分担者	西 芳実 (Nishi Yoshimi) (30431779)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授  (14301)	
研究分担者	細田 尚美 (Hosoda Naomi) (70452290)	長崎大学・多文化社会学部・准教授  (17301)	
研究分担者	山本 博之 (Yamamoto Hiroyuki) (80334308)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授  (14301)	